

新村
出編

広辞苑

新起

岩波書店

ないたく——ないふ

ないだつ内諾 内々の承諾。「非を傳る」こと。
ないだつ内達 内々の達し。非公試に知らせること。
ないだつ内探 内々にさぐる。内偵。
ないだつ内談 ①内々の相談。下相談。織田二夫人の
内容が漏れる。②内々の談話。密談。「一の
内容が漏れる。③内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。④内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑤内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑥内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑦内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑧内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑨内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑩内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑪内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑫内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑬内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑭内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑮内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑯内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑰内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑱内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑲内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。⑳内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉑内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉒内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉓内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉔内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉕内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉖内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉗内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉘内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉙内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉚内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉛内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉜内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉝内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉞内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㉟内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊱内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊲内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊳内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊴内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊵内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊶内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊷内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊸内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊹内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊺内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊻内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊼内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊽内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊾内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。㊿内々の密談。織田二夫人の
内容が漏れる。

ないてい内庭(内) 天皇家の生活とて国庫の毎年限
皇室費の一。天皇家の生活とて国庫の毎年限
額を支出するもの。御手元金など、宮内庁で経理す
る金ではない。↑高辻「皇族費」
ないてい内定 内に定めること、定まっているこ
と。またその決定。「採用」
ないてい内膳(内) 密に保衛すること。ひそかにやる
こと。内膳「敵情を知る」
ないてき内助(内) 内膳に関するさま。精神面に関するさ
ま。内部的・内的的。一問一答で進む。→生活!
ないてき内助の助動詞 ないて助動も「付いたも
ない」と、「説にないて」などの形が用いられることもな
くもない。「い」「すむ」などの形で用いる。「泣かとい
い」(五分は働かいすむ)
ないてん内典(ナイテンとも) 仏教の典籍。→外典
ないてん内典外典 仏教で仏教の書物とそれ
以外の書物。書籍全般のこと。
ないてんかん内転筋(内) 四肢や指などを内側に曲げる
動きをする筋肉。
ナイト(Night) ①騎士。また、俗に女性の護衛をする
人。②オリスで王室または国家に対する功労がある
つて授けらる爵位。男性にはサー、女性にはデム
(Dame)の称号を許される者。勲功筋。③チェスの駒
の一つ。将棋の桂馬のような働きで八方へ飛べる。
ナイトライフ 夜間。→ウキウキ(夜寝る
前に着る部活)。また、夜遊び。→カウン(夜寝る
巻の上にはおろ、ゆつたりた部屋着)。→キャッパ
(巻の上にはおろ、ゆつたりた部屋着)。→キャッパ
④ダンス音楽的なリズムを催す民間営業の高級飲
食店。→クリーム(Cream)就寝前使用する
する肥下るおいと柔軟性を与える栄養クリーム。
→ゲーム。→ショー 夜間に行合。ナクター。
→デーゲーム。→ショール 夜に行う
ショー。→深夜漫遊行。映画館などで上映の後
場朝にかけて行くもの。
ないてき夜遊(ナイト) 夜遊びが楽しめる場所。夜
の遊び場。盛り場。→ソイル(二下駄に同じ)
べッドのそばにある小さなテーブル。
ないてき君主(所長に属する財貨、特に内帑金。→
倉庫。→内帑金) 君主の手元に集まる金。
きん内帑金 君主の手元に集まる金。
ないてき内蔵(内蔵) 氏名の「江」時代の譜代大名。→
こなん内藤南庵 東洋史学者。名は虎次郎。陸奥久松
馬内秋田県黒角也。生れた。大坂町日蘭堂の記載
を経て京都府豊後。市井に僻居して書を嗜み、
漢語・支那文庫・諸國誌・支那論「日本文化史研究」

ないほうに「内」押入。内乳の十の指の一人。尾張大山藩士。別号、弘公庵など。一書に「山城藩家臣」に罷免され、芭蕉に師事。作風は高直西鶴。著「役こき草子」など。
ないほうに「内」正。俳句の名手。日本派の重鎮。著「鳴雪俳句集」俳句作法、鳴雪俳話など。
ないほうに「内」道。仏道の稱。内教。一外道。
ないほうに「内」道場。宮中にて仏道を修する所。しゆく。一眞言院。
ないほうに「内」江戸時代。甲州街道の最初の宿駅。江戸四宿の一。一六九八年元禄一から高倉村まで、下野越北側に開設。四谷大木戸一から高倉村までの地。今、東京都新宿区新宿一三丁目で、書道街道との分岐点。
ないほうに「内」得。役職を利用して取る利得。役得。日蘭「イイトクヨウ」。
ないほうに「内」徳。心内に積んで、外部にあらわさない美德。陰徳。○后妃の徳。
ないほうに「内」毒素。antidote。グラム陰性菌の細胞壁を構成するホモ多糖。菌体の破壊。毒素により放出され、発熱、ショックなどを起こす。エンドトキシン。
○外毒素。
ナイトロジェン・マスタード (nitrogen mustard) テスナイトドガス (イソリット) の窒素置換体。細胞分裂を抑制する作用があり、特に悪性腫瘍に対して強く働く。でこの誘導体を制御剤として用いる。
ないほうに「内」名。名刺のちわ。内名。こつとりと狂暴。狂。葛賀今日此の殿の御へらうするーちやばどに。○内心。真意。日蘭 ナイナイウカガウ。一「うに」に「う」状態。ないほうに「内」乳。胚乳のうち胚葉から生じたもの。胚を包む胚葉組織に富む組織。胚が成長する際、栄養を供給する。内胚乳。一乳乳。
ないほうに「内」燃機。内燃機関に同じ。一船。一ゆわ。○燃機油。内燃機関に使用する潤滑油。引火点。○粘度の高いことを必要とする。
ないほうに「内」燃機。内燃機関。ガソリン・燃機・ディーゼル燃機など。一外燃機関。爆発燃焼機。その熱エネルギーを仕事にする。燃動機。ないほうに「内」車。内燃機関。内燃機関を原動機とする客車・貨車。鉄道のディーゼル・カ・ガソリン・カなど。気動車。
ないほうに「内」押入。内乳に同じ。一外胚乳。ないほうに「内」胚乳。胚葉のうちの最も充実した部分。一内胚乳。胚葉のうちの最も充実した部分。

[illegible]

てて、^職総部ギてのわ熱の 形石器 かせ用 呂 ② 始。 17。重文

21

査。株式主体が被監査組織、内部者である場合の監査。株式会社では、一般に監査役による監査であり、外部監査。いせいに「監督役」を「監査官」として体内に侵入して生活すること。動物は消化管その他の体内や血管・筋肉などに寄生する。一外部寄生。いさんう(内部金融)。企業が必要な資金を、減価償却積立及び社内留保・利用など、企業の内部で調達すること。自己金融。一内部金融。一企業の内(内部)経済個々の企業が新しい機械設備の購入や経営能力の増進などによって生産費を低くし利益を得ること。またその利益。一外部経路。いせいに利益を得ること。(内部牽制組織)会社上と日常の業務執行の過程で生ずる監査者と業務の分担について防止できるように課した計課で記帳させる。その記録を照合することによって誤記入などを防止する。一こうさき(内部工作)ある目的のために、組織の内部の人にひそかに働きかけること。一こうてんこうか(内部光電効果)光の伝達と同じ。いくはつ(内部告発)企業全体の隠れた不正などを組織内の人間が外部に明らかにし訴えること。ーりゅう(とりみち)内部者取引インサイダー取引に同じ。ーじようがい(内部者収着)内部被害者。身体障害者を福祉法に定められた障害者として心臓・腎臓・呼吸器などの身体内部に障害をもつ者。ーていごう(内部抵抗)電池・電気機器等電気計器において内部で端子間に存在する、不必要な可避な電気抵抗。ーはく内部波)海洋内に発生する波・海水の密度の変化に重力作用して生じる。ーまき内部密着)外部から物体に加えられる変形エネルギーの一部が熱エネルギーに変化する現象。内耗。一内部での利権闘争。ーりゅうほほ(内部留保)企業が税引後残高から配当金以外の社外流出物を差し引いて、現金を企業内に留保すること。また留保された金額。狭義には、利益剰余金のこと。内留保。ーろうどう市場における労働力の需給ではなく、組織特有の規則・慣行などで賃金・昇進などが決まる場。企業など。一外部労働市場ないふく(内部)薬を飲むこと。内用。一ワクチン(内服)飲んで予防効果を得ようとするワクチン。ロウケウ(内服)胃腸炎予防などに使用。ないふく(内瘻)うわにはさほどに見えなくて、内実が俗漏なこと。内部の俗漏なこと。一不家庭ないふく(内分)一時で便宜に假した仏像。②自分の居室に安置して静養すること。ないふん(内紛)内部のことたごとくうちあめ。内証。ないふん(内憤)心中のいきどおり。ないふん(内分)①ちわけ。②表沙汰しないこと。③に済ます。③数)一つの線分AB上に一点Pをと

る。この「内」は「中」と同じとき、PはABを中に含むことを表す。「文法」の「文」に「中」が用いられることは、よく知られている。

ないふん(一)外分
ないふん(内)内印を括弧した文意。うちがわ。い外分の耳に入ること。(一)に連なり。(二)表沙汰にしなさいことと内分。(三)に類ひないふんびつ

ないふん(二)内分泌
各種の腺(内分泌腺)がその分泌物を導管によらず直接分泌液または血液に送り出すこと。もとはセルナールが提した概念。その分泌液はホルモン。ないふんびい外分泌。いからんふん(三)内分泌腺物質(生体に在るホルモンと類似した作用をもたらす化学物質。DDT・PCB・スフェノールAなど。環境ホルモン。いきかん(四)分泌器官(内分泌腺と同じ。いせん(五)分泌腺(一)内分泌。分泌するホルモン分泌を行う腺。脊椎動物の脳下垂体・甲状腺・生殖腺・副腎あるいは昆虫のアラタ体など。内分泌腺体)

ない(一)内腎(主にお尻入りのそばへ。内臓。ない(二)せい(三)目分自身のうちに関じること。つまり背を向けること)

ない(一)き(内)①内部の降壁。うちがこい。②壁の内。ない(二)うちわ

ない(一)ん(内)窓内部の変化。また国内の変事。ない(二)ん(内)内蔵 mainly 主に国の書籍で著述の中核をなす部分。残余の部分を外編といふ。「狂子」いへん(五)古代即位または朝貢などの重要な節門外に諸事を指摘した第位の公卿を外弁という。平家三右衛門の公卿參與^二

ないほう(一)内方(一)内部の方。うちがわ。②他の妻の部屋。内儀(内室)うちかた。天津保良と布留の朝廷。いかに伯母によりけりし高なり

ないほう(二)内包(intension; commotion)
急激な微発せる範囲外延に属する諸事物が共通有する特徴・性質の全体。形式論理学では一般にいふ外延は反対の方向に増減する。例へば「学者に内包概念を含む者」文学者・研究者・経済学者などと外延に加えること「哲學家としていう徴象を内包にと加えると外延は減少する。内容(二)内部に含み持つことに意味をもたず質的量的に加え合せるような量。速度・密度・濃度など。通常は外延義に翻訳して理解される。いへん(一)外延

はいほう(一)内法(内典の寸法。うちのり。
ないほう(二)内法(他者の宗教に対して仏法の称。い外法)

いはいほう(内報)内々の知らせ。内密の通信。

イボイル(Tritander Struppand Nappau) イギリスの作家。Voltaire ドット B 出身。インダ亜移民の

路「ニゲル・ストリート」上「物似人聞たち」中間
 子「ケルト新い顔など。ノ」(ハ・賞)⁽¹⁰⁰⁾
 ないほんそく「内衬足」内反足⁽¹⁰¹⁾。
 ないまぐ「内蔵」内部の事情。うちまぐ。
 ないませ「綯いませ」①綯いませること。「五色」
 組組「歌謡使用明細書」時代人物などに異なつた
 数脚本を混ぜ合せて新しい狂言の筋を作つた。
 ないませ「綯い交せる」(他下)②なひます
 (下二)③像々の色采などをより合わせる。④質の連
 のを混ぜ合わせる。「若へてラン」ぜた作品
 ナイン「Nine」内蔵。内蔵。部族。一〇「二
 世紀」アタキハの東西のたつて建國たが、二
 一八モンゴル軍によつて討滅。
 ないみづ「内密」表向きにしないこと。内緒。秘密。
 一に頼みまづ「一」に求めること。
 ないみょう「内明」梵語 abhinirūpya イドの
 學問分類で形而上学的思索をいう。仏教では五明の
 一つで「内教」を指す。
 ないみょうふ「内務」(内閣の政務)。命婦。参照。うちのみやう
 ないみょうふ「内務」(内閣の政務)。命婦。参照。うちのみやう
 警察。太。衛生。地方行政などに関する政務。すなわち、
 兵衛における日常生活に関する政務。いきよ
 うづ「内務卿」一八八五年明治一八官制改革前の内
 務省長官の稱。一「内務省」警察。地方行政
 選挙その他行政を管轄した中央官庁。一八七三
 年明治六設置。一九四一年廃止。中井。丁丑公卿一
 設立の頃より政務は益々増多した。「たいてい」
 「内務大臣」内務省の長。内相。一「はん内務卿」旧
 陸軍の兵衛における日常生活の単位。中隊が五六
 の内務隊に分れた(ナチの士官が隊長として統率した。
 ないめ「泣い目」(ナチの士官が隊長として統率した。
 一十訓辞「見よ」す。
 ないめ「内密」内密の命令。表向きでない命令。
 ないめん「内面」内面に向ふ表面。うちわの面。①
 ②心理。心情に關する。一に動搖する。③外面。
 ④内心に表れる。表面に現れないこと。⑤外
 から与えられた知識。師範館などを目的のものとして
 取り入れること。一けんさくはん内面研習盤」六
 や内閣内閣の研習上仕を行う機械。内面研習盤。
 一せいかつ「内面生活」精神生活。肉的生活。
 一「内面的」内面に關する。精神面に關する。
 一「内的」(内的変化)ひひようしや「内面描写」
 文學作品などで人物の心理もしくは気分などの心的
 状態を描写すること。
 ないもう「内蒙古」モンゴルの戈壁沙漠以南の地
 うらちち。「一じちく」(内蒙古自治区)「ようモン
 ゴル」じちく。
 ないもう「ねたり」無い物ねたり。そこないものを無
 理に言うてはしがごと。実現が難しいことを示知で

求めること。
ないもん内門内内部にある門
ないや内野(野球場で、本塁・塁二塁三塁を
よぶ正方面の域内の称。インフィールド。ダイヤモンド)
内野郎・あんた内野安打(野球で内野に飛ん
打球が走者の脚力や打球のコースによってヒット
になったもの。!)しゅ内野手(野球で守る
手。すなわち一塁手二塁手三塁手遊撃手。内野。
ナイヤカラ(zingazig)ニイナガラ
ないやく(内約)内々の約束。うちやくとく。「一を
する」
ないやく(内業)内服業
ないやく(内務)律令制で、中務給の省に属し、中
中の診療・薬害の調査つかさどった役所。
ないゆう(内論)内々。「すりのかき」
ないゆう(内憂)内部のうれえ。国内の心配事。一
がいかん(内憂其患)国内の心配事と国際上の
配事・外交の憂慮。富強三指標其旧患をさげ狂
びきで攻立つるの要台外応酬念の入りたる仕合
ないよう(内用)内々の用事。うちへの用事。(2)内閣
に用いること。一葉「外用」
ないよう(内容)ある形をとって現れているものの中
にある事柄や物。①物の中身。②袋の一③事物・現象
を成り立たせている実質や意味。「のない議論」
式一ききたて(内容教科書)知識内容を科目上
とする教科。理科・社会科など。実質教科。一用具教
科。一「内容語」(content word)具体的な意味
内容を表す語名動詞形容詞名詞的な意味
しうめいの内容(動詞)郵便局において、書留郵便物
にした文書の内容(動詞)具体的内容
度情(力)とに基くとくとして。実物の内容がわかるよう
に作ったパンフレット。
ないより(内腫)身体の内面に生ずる腫物。
ないよりあい。「内容含み」うしろあい
ないら(内瘻)馬の腸胃の病。駝し描などにもい
日飽ナリヲ(内難苦)。柳井八説まじとい一葉に
馬を書き
ないらいし[内礼司]律令制で、中務給の省に属し、宮
中の礼儀・達行法を檢察つかさどつた役所。のち彈
正台に併合。うちのいやつかき。
ないらん(内亂)①国内の騒乱。②国内における政府
と反政府勢力との兵力による闘争。國際法上の戦争
はないが、交戦団体の承認をうけるも國際法上の戦争

9151

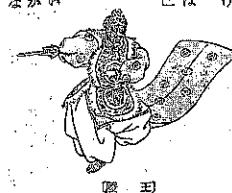
2191

[REDACTED]

りやういくく(「露臺」)階席の子弟供のために行ふ陳
露臺(保平、絳育)。一てちうは「衆家子」知覚的障
害児、知的障害者を相談・指導・援助を受けることがで
きようといふ。都道府県知事會が交付する「陳露臺」
りやういん(「陳露臺」)国会の衆議院・参議院、明治憲
法下では貴族院、衆議院、院下二院、兩議院。一き
ちうあつたけに「陳露臺協議會」議案として「陳露臺協
會」の意見が対立した時に、双方の間に妥協案を成立させ
るための機關。各議院で選舉となされ、〇人の
委員で組織。
りやういんとせしむ(「料飲飲」)料理飲食等清酒料理の略
りやうやう? (「涼」)涼しく感じる間。
りやうやう?(「兩方」)両方のうで。もう一つ。「一で抱え
りやうらん(露臺)①裏仕のくように高くすること。②
俗世を高く超越すること。――く(「露臺」)東京都
台東区浅草公園にあった二層閣、煉瓦造の建築物。一八
九〇年明治三十四年。高さ五十二メートル。一九二
六(大正二)年の関東大震災に倒壊して撤去。俗稱「十二
階」。た(「露臺」三國姓の文帝が得臣に築かせた
樓閣。高麗の物産であつたらぬ樓上の欄干を書いた
上落家の頭髪を下りて來た時は恐怖で黄白にな
つたといふ)。夜露臺(「のこころごとく」と露臺の志ある
志)(「露臺」唐詩唐書反てて續載してと「露臺」の志あり
「世俗の世界から抜け出して、別天地に遊ぶ願ひ」
りやうらん(露臺)日本各地の勸業展覽會場
正統建築新様。一善。露臺物の物によりて小野寺
守祐の撰。八四四年弘仁丑戌成。作者五人九人
一編現存巻を取らる。唐詩の影響、詩文藻典雅を
反映。
りやうえつ(「兩省」)中國広東省と湖南チワン族自
治区の併称。兩省。
りやうたい(「良透」)〇たの縁組につかひたる縁組。
「りやうたい」の〇の仏に救われる機会。平家二
「陸奥のまぢなま」
りやうせん(「露臺」)現代、梁の孝生の築いた竹圍
の意經子諸侯家の風格。皇威。竹の圍。平家四よく
左右の陣を固めたり
るしく我等が近衛家の告す
を得てへい)
りやうさん(「遠達」)は
るか進むこと。「前軍」
りやうおち(「隆下」)雄
策の露臺を過越する
の曲。色色彩苗仙哲
が伝えたといふものと
は沙陀語。漢歌だ
るとは舞臺としても用ゐ
る。北齊の羅士思常が
天成の義統を擁護すべ



(原 田)

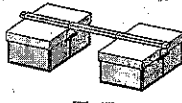


板面に閉じ、故事を破つたものをかたどる。羅漢王入陣曲。羅漢王。羅聖王。麗國王。
りようおてて「羅漢王」を撰攝し、同時に二の曲で王手をかつかう。

りようちうとくかくれず「翁道堂」江戸初期の黄葉寄余の傳。出羽の人。宇治乃彌寺に参拝。江戸で漢方薬商を勤業し、諸帝の修養・復興に尽力。上野寛永寺勸善堂(圖書館)を立て、大徳院を築く。(續説)
りようちうレンズマツ開間」両面共に白面をなす。引上。

りようおさき「羅押え」江戸時代、大名行列で中間小僧より先頭する足金八が食ひ出し、口押入りやうちねを贈ると、現金まがつくと、口押入算する隙に入れたものは貸出しの日には外に支払ひの日のにおもひに利子をうけたいこと。國寶記。
りようおもひに「扇風」片息風こに対する造題五々に相を愛する者。相違相愛。
りようかび「風化」悪いのが盛くなること。グッドリッチ伝説国王の治世、并に民人へ進歩するの情勢。
りようかび「皇貨」品よりよい貨幣。美濃國格と法定價格との差の少ない貨幣。土產貨。
りようかび「夢花」ヒシの花。夢花鏡の略。いさよ「紫雲鏡」裏面に夢の花を鏤つけるからいう金鳳簪の傍の異稱。
りようかび「蒼龍」龍の歌。主として旧制高等学校や大学予科の寄宿舎の歌。
りようかび「縁城」かがりび。むねび。
りようか「露華」陸奥他ものをしてのぞその上にすること。「他をなす」。
りようか「薔薇」天子の草。りやめが。太平記三翌日「を廻らして六被褥」なりあせんこと。
りようか「塞川」中国東北地区南部の大河流域古塞河間に穿る塞其河とインモンゴルの大興安嶺の麓に発する西遼河が、坂巻谷間具伏付近で合流し、遼河となり、南西流して盤龍島や双台子河と

りようかいと「下野」ものごと。会得をするること。また理解に認めること。読解。「を求める」「聴解」の略。「ディール」とは、文作時難字を秘伝生活者の筆と見て、その内的意味を隠す影射人追本義にしてあらえること。精神科学解釈学の基本方法とした。これを受けて、精神科学解人間と自己の存在について問ふ一つの可能性を企ててものと見て「了解を人間の基本構造として定めた。理解。いしんなく「了解心理学」因果關係論を通じて人を了解しようとする。実験心理学に出して人は他人の悲しみを手解でこの行事史を以

[illegible][illegible]

りようきくは「**皇路**」の物の般をはかるための器具。拵
りの役に立つた時、特記。
りようきは「**倭寇**」同じ任務につけている仲間、飛行
りようきは「**一義**」（公妻衆の書を明白完全であら
わしきもの）
りようきは「**二義**」（公妻衆の書を明白完全であら
わしたるもの。大衆の教へ、太極記のこと）を印度の境に
敷くべきことを「**三義**」（宗教の書の教典、
りようきは「**四義**」の意味、**二つ**の意、**一**を「**五義**
性」の言であるが、是れは金が一重の扉を持つとい
う事だ。）
りようきは「**開闢**」月易で、宇宙の本体である太極か
ら生じた「**の要素**すなわち陰陽」。天と地
りようきは「**六義**」(秘記)「**開闢**」(秘記)
りようきは「**七義**」(秘記)「**平安京**内蔵の殿の一ツ
仁壽院社の東、金閣殿の北にあり、天皇沐浴し齋戒
を着用し御座す、内裏の、最奥内の箇所は此の後方
にある御所、斎戒の室の所、
りようきは「**八義**」(秘記)「**開闢**」両方のあし。双脚。一き「**同
脚起**」(秘記)「**開闢**」の足。
りようきは「**九義**」(秘記)「**開闢**」はすかしめじあること。
りようきは「**十義**」(秘記)「**開闢**」はすかしめじあること。
りようきは「**十一義**」(秘記)「**開闢**」はすかしめじあること。
りようきは「**十二義**」(秘記)「**開闢**」はすかしめじあること。
りようきは「**十三義**」(秘記)「**開闢**」はすかしめじあること。
りようきは「**十四義**」(秘記)「**開闢**」はすかしめじあること。
りようきは「**十五義**」(秘記)「**開闢**」はすかしめじあること。
りようきは「**十六義**」(秘記)「**開闢**」はすかしめじあること。
りようきは「**十七義**」(秘記)「**開闢**」はすかしめじあること。
りようきは「**十八義**」(秘記)「**開闢**」はすかしめじあること。
りようきは「**十九義**」(秘記)「**開闢**」はすかしめじあること。
りようきは「**二十義**」(秘記)「**開闢**」はすかしめじあること。

[illegible]

りようけんは「**龍虎出**」といふかへこと。
りようけい(『**皇朝**』)刑を量定すること。裁判所が、処
断刑の範圍内で、具體的に量定しすべき刑の程度を
決めること。重一
りようけいじつつかんという(『**容華非甘錦**』)袴穿ひ
の紐、桂皮亦其狀から成る漢方藥名。關西で處置の
際の際に用ゐた。立ちくちと成る頭巾、髪飾。
りようけいは『**天竺國**』の**天竺國**の物。
りよんの字を改換した。字は平如、号は任公。広東新會の
人、康有爲に従ひ戊戌政變中に参加、失敗して日本
に亡命、成立後、新民黨等にも連なり、政黨運動に努め
た。民國設立後、司法總長、財政總長などを歴任。著書
代義政論(中國政治研究法など)。○註記
りようけいさく(『**兩毛作**』)一年間に一度異なつた作物
を作つて食すこと。にもあらず。
りようけん(『**八世**』)一領家安成藩主(天富川漂流の
水先達中流にある地名、奥羽郡・田子町)中央權を
失ひ、北條氏に降参するに至る。○註記
りよく(『**八世**』)西側に分布する盛岡の要衝、片麻
岩類、花崗岩類などから成る。白亜紀と形成された。
○註記
りようけん(『**領略**』)左、右両方にまた。双稱。りよう
かん
りようけんは「**龍虎**」丁蘭の下に「考えをめぐらすこ
と」。墨峯。所著。毎月抄この下に「御一侯へ」「二番う
を起すナ」「本教」のとりかかり。雄辯。對策。
例「獨逸兵士工の心」とを語りながらいかなること。ゆる
やせんと思ひの思ひをあらわしなれること。ゆる
事やごと。「**狂戦**」戦身事なへすれば死ぬるには及ばぬ
事やごと。「**料簡**」五に「腹を立てること」嫌惡
ぶといこと。→すべ、「**料簡**」五に「腹を立てて
腹をだまとしてゆのこと」。冷井波女作「聲高に言ふ
こと」→「**よい**」の「**よい**」が「**料簡**」の「**よい**」の心
持方が正面にはれてゐること。不心得。「**よ**か
い」料簡深に「**形**」考へ深い。狂、實證事物事御「**う**
りようけん」**龍虎**に用いる。犬、狹獺、**龜**など。
りよ大木山(Cane Mountain)北七ヶ嶺の南端にあ
る山脈。五月下旬刻に天候不良。
りよはん(『**皇朝**』)平安公卿の天台宗の僧。近江の人。
横川には修行し、天台座主となり、藤原師範の
援助を受けて比叡山に復興に努め、天皇と中興の祖
號授けは意願。後に元三三大師、角の大師と尊まれ
る。(註記)
りよげん(『**源流**』)野原を繞ること。一のひ、**猿**
屎火、**火**勢いがきかぬので防ぎかねること。いかにさ
その形容。
りよご(『**兩虎**』)二匹の虎。轆じて、力盡の匹敵した
人の勇將のたとへ。一相懸「**已**」

相聞(は勢い俱に生ず「史記廉頗相如」)兩雄が敵う意にはどちらかが必ず死ぬ。またどちらにも倒れる意に用いる。

りようごう(商會) よし商人

①一歩を譲して處分しさが若し「宋紀孝子岳良深源若君孺子嚴家翁者」とよし商人は品物を産深く隠して店頭に陳べておかない。買客が学徳を隠して買わないことなす。

りようごう(電燈) もり電氣

りようごう(國體) 孫卿の家

りようごう(國體) 律令制における畿民の一種、治部省の諸卿司(公卿寮)に属屬し、禪役の代りに山陵の警備に就するもの。十五歳

りようごう(工活) 賣物をよくさること。

りようごう(工活) 「良」技術のすぐれた職人。「材を造はず」

りようごう(工活) 「良好」よいこと。このまじいと。

りようごう(工活) 「良港」といふこと。天然の「りようごう」

りようごう(工活) 「東江道」江門と香港にまたがる二つの國境。東京中央区と墨田区にまたがる兩國境の船岡岸の地帯。隅田川が武蔵下総兩國の國境であつたためのものである。隅田川に因て鐵道のりようごうといふ。

りようごう(工活) 日本と墨田區の面を連絡する。一六八二年(文政二)完成。現在のものは、九三年架設の續橋で、長さ一六五丈。江戸時代から川開きの花火の所。隅田川りようごう(工活) 特定の種族をまかなうための費用を課する團。

りようごう(工活) 傾有する團。

りようごう(工活) 「刀」大小。もろこし。

りようごう(工活) 江戸幕府の職制。初めは大番と御前奉行には番頭格と姓組親。阿寄。

りようごう(工活) 儒教の役人。下役侍。

りようごう(工活) すぐれた能。またその持主。

りようごう(工活) い妻。いげん様(皇妻父母)

りようごう(工活) 皇妻であり資得をも入。

りようごう(工活) ①よい建築材料。②よい人材。

りようごう(工活) 皇祖 よくよくくり。皇業

りようごう(工活) 利権 ある目的のために必要な権利。

りようごう(工活) 中國の怪奇小説集。清の蒲松齡紅蓮の作。一大巻。神怪を狐に関する民間伝説をもとに現実社会と人間の心理を透射した短編四九一話から成る。

りようごう(工活) 良業 よいかりごと。すぐれた計画。

りようごう(工活) 皇計。

りようごう(工活) りよきや(皇業) 閣下

編者 新村 出(しんむら いずる)

1876年(明治9)山口県に生まれる。号は重山、言語学を専攻、東大助教授を経て京大教授。特に、キリシタン語学に新生面をひらき、語源語誌説に卓見を示す。文化勲章受章。1967年(昭和42)8月没。

[主著]「南蛮更紗」「南蛮広記」「東方言語史叢考」「東亜語源志」

広辞苑 第七版

一九五五年五月二五日 第一版 第一刷発行
一九六九年五月二六日 第二版 第一刷発行
一九七六年二月一日 補訂版 第一刷発行
一九八三年二月六日 第三版 第一刷発行
一九九一年二月二五日 第四版 第一刷発行
一九九八年二月二日 第五版 第一刷発行
二〇〇八年一月二日 第六版 第一刷発行
二〇一八年一月二日 第七版 第一刷発行 ©

編者 新村 出
代著者 岡本 厚
発行所 北島 義俊
印刷者 鎌波 書店
東京都千代田区一ツ橋一五五
郵便番号 100-8555
電話 営業部 03-5561-0011
内線 1000
03-5561-0011
03-5561-0011
03-5561-0011
http://www.iwanami.co.jp/

Printed in Japan
ISBN978-4-00-080131-7